

HANS 臨床症状からみた病態の解析と治療

Human Papillomavirus Vaccine-associated Neuroimmunopathic Syndrome

横田俊平

横浜市立大学

東京医科大学臨床研究センター客員教授聖路加国際病院リウマチ免疫科アドヴァイザー

症例:19歳、女性

◆ HPVワクチン接種前:

幼少期よりバイオリンを習っており、現在、音楽大学でヴァイオリン・ソリストとして活躍。 部活:剣道部に属し、段位は上位であった。

- ◆ ワクチン歴:これまで推奨のワクチンはすべて接種したが、副反応はなかった。
- ◆ HPVワクチン接種状況: <u>サーバリックス</u> ① H22年7/31. ② H22年9/4. ③ H23年.4/16.
- ◆ HPVワクチン接種後の経過:
- HPVワクチン3回目接種約2週間後、ヴァイオリンを弾いていて左腕に激しい疼痛。膝関節痛も 出現し歩行困難。剣道で竹刀を握れなくなり退部した。異様なだるさ、ひどい手汗、車酔い、立ち 眩みが始まり、平成24年8月から車椅子を使用。KR病院にて血液検査、脳波、MRI、CT などを 実施したが異常所見なく、診断・治療はできないと言われた。
- その後起床時から始まる**持続性頭痛、全身痛、手のしびれと振顫様の指の震え**が出現、バイオリンの絃を抑えるのが苦痛になった。激痛に襲われると横になって転がっているしかない。「空気を吸えない感じ」から過呼吸を起こす。
- ・ 平成25年9月頃には脱力がすすみ、ヴァイオリンの弓どころか鉛筆も持てなくなった。集中力も落ちてきたが、ヴァイオリンは大好きなので楽譜を覚えることはできている。持続性頭痛とともに発作性頭痛が襲い、家人と温度感覚が起きらかに異なり体温調節がうまくできない。光過敏がすすみ眼痛もしばしばある。音過敏・嗅覚過敏なし。睡眠障害(入眠障害・中途覚醒)もすすみ、また、1日に2、3回は突然眠ってしまう。学校では「昼間の眠気」との戦いである。ストレス、低気圧や台風で体調は悪化する。生理は当初は周期的にきていたが、次第に間隔が延びるようになり、出血量も減り、2日間で終わってしまう。1日目に強い生理痛とともに茶褐色〜黒い血液が出て凝塊物が混じる。簡単な計算に時間がかかる。文章を書くと漢字が減少し平仮名が多くなった。論理的な思考はできる。しかし、新規の楽譜の暗譜はきわめて苦手になった。
- □ 理学的診察: allodynia(+)、筋把握痛(+)、関節炎・付着部炎所見(-)、FM圧痛点(18/18)。
- □ 血液検査:炎症(-)、甲状腺機能(-)、抗核抗体 抗dsDNA抗体(-)

HPVワクチン接種と症状の累積状況

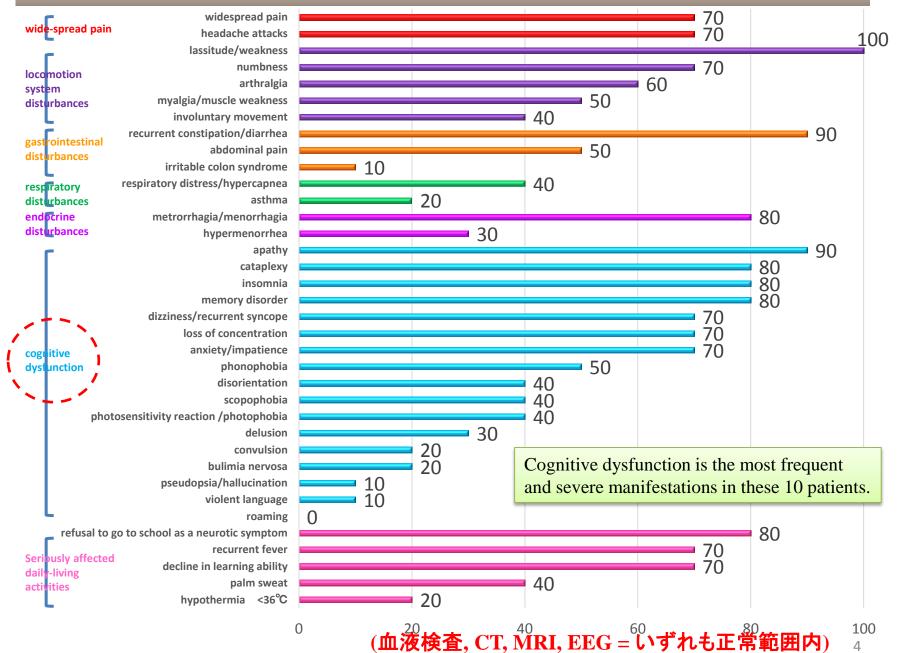
case No.	birth date	late vaccine 1st vaccination → symptoms		2nd vaccination → symptoms	3rd vaccination → symptoms
	age at investigation				
1	18/Jan/2000	Cervarix	10/Oct/2012 → none	10/Oct/2012 → 5/Dec/2012 (8 w)	8/Mar/2013 → 12/Sep/2013 (24 w)
	14y 3m			①32	134568111141516122342512333
2	28/Jan/1997	Cervarix	24/Aug/2011 → none	26/Sep/2011 → 8-10/Oct/2011 (2 w)	20/Feb/2012 → Apr-May/2012 (8-9 w)
	17y 3m			238	2386832075733
3	19/Apr/1998	Cervarix	24/Aug/2011 → none	26/Sep/2011 → Jan/2012 (12 w)	20/Feb/2012 → Mar/2012 (2-3 w)
	16y 0m			161821	2381016182012525738336
4	15/Feb/1997	Cervarix	15/Aug/2011 → 15/Aug/2011	20/Sep/2011 → Nov/2011 (6 w)	16/Feb/2012 → gradually worsen
	17y 3m		19	123411923	12345611113141515122323433
5	1/Jul/1997	Cervarix	8/Aug/2011 → none	10/Sep/2011 → none	3/Mar/2013 → Apr/2012 (7-8 w)
	16y 10m				134561315161312312512131353
6	23/Feb/1994	Cervarix	6/Oct/2011 → 10/Oct/2011	8/Nov/2011 → 15/Nov/2011 (1 w)	30/Mar/2012 → 8/Apr/2012 (1-2 w)
	2-y 2m		33	183	12346781612232567356
7	2/Oct/1998	Cervarix	27/Jul/2011 → 27/Jul/2011	17/Oct/2011 → 24-26/Oct/2011 (1 w)	26/Mar/2012 → Apr/2012 (3-4 w)
	16y 7m		128192633	38773	12345678113111181923453231 233
8	1/Apr/1998	Gardasil	24/Jul/2012 → 19/Aug/2012	5/Dec/2012 → 8/Jan/2013 (3 w)	none
	16y 1m		1361932	12367111121415161819223252333	
9	20/Jul/1997	Cervarix	3/Sep/2011 → gradually progressed	6/Oct/2011 → gradually progressed	8/Mar/2012 → gradually progressed
	16y 9m		4	4	4648
10	12/Feb/1998	Cervarix	$11/\text{Sep}/2010 \rightarrow 12/\text{Sep}/2010$	23/Oct/2010 → Feb/2011	28/Mar/2011 → a few days (1 w)
	16y 3m		(19)	219	134678911197237333

① widespread pain	② headache	③ cataplexy	4 arthralgia/arthritis	(5) involuntary limb movements	6 myalgia/lassitude	7 tender points
® constipation/diarrhea	(9) irritable colon disease	10 anxiety	11 visual and auditory hallucination	1 ② acoustic hyperesthesia	(13) optic hyperesthesia	14 palm sweat
15 scopophobia	16 menstrual irregularity	17 lumbago	® absence of school	19 numbness of extremities	20 persistent mild fever	②1 fever (>38 °C)
22 concentration drop	23 memory disorder	24 orientation disturbance	25 dizziness/syncope	26 hypersomnia	② sudden sleep attack	28 delusion
36 decreased						2

scholarship

3

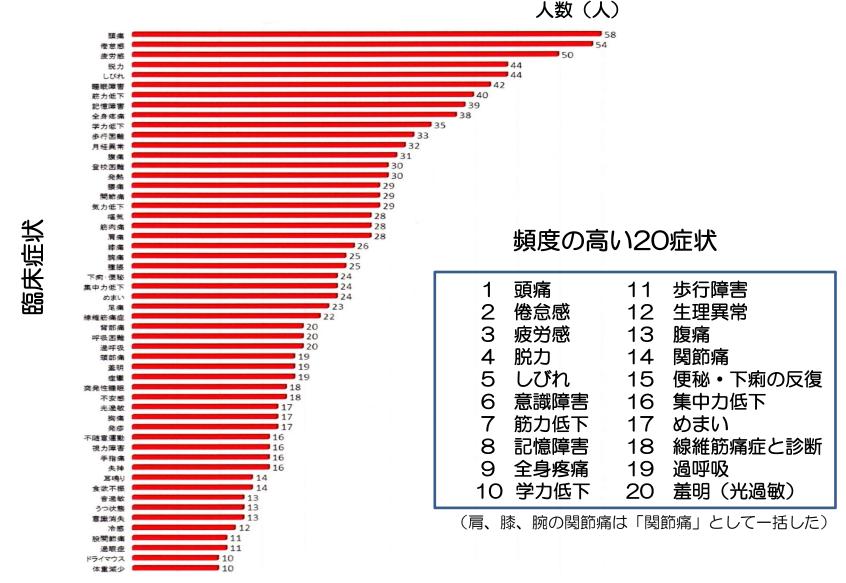
HPVワクチン接種後に症状を呈した10例の症状の発生頻度



HPVワクチン接種後の副反応 厚生労働省発表資料より

接種人数(人)	~ 3,380,000(厚労省)
副反応症報告例数 (人)	2,475(0.074%)
重篤な副反応報告例数	1,231
副反応症状の件数	7,676
重篤な症状の件数	4,649

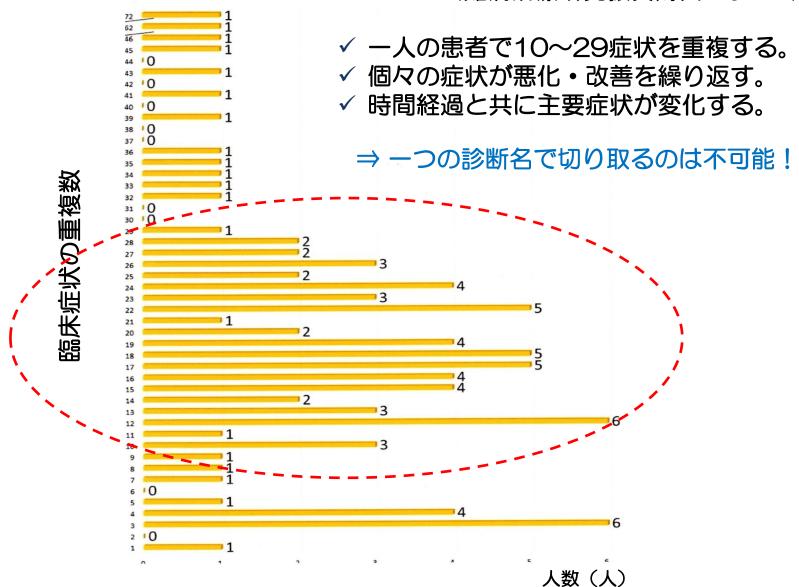
HANS 88症例の呈した臨床症状の種類と人数



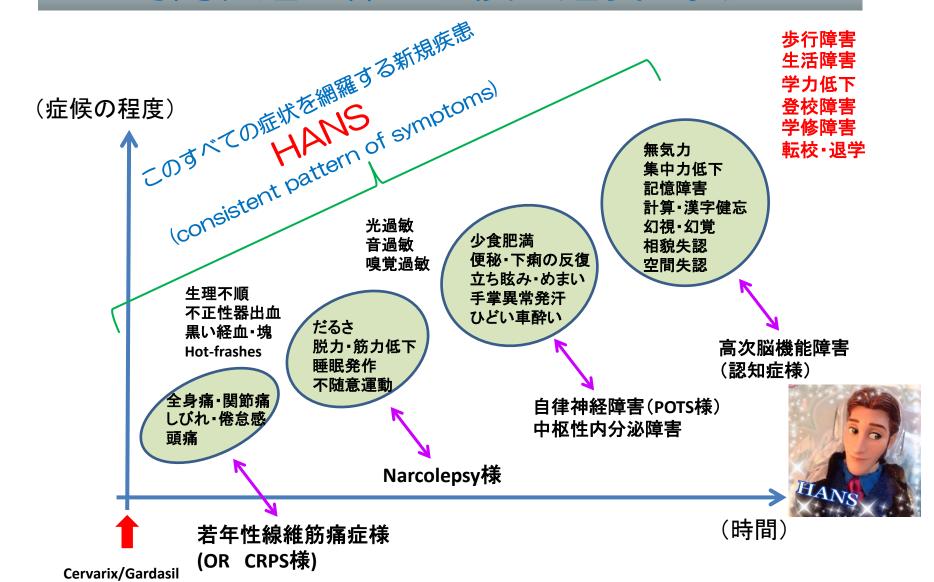
(難病治療研究振興財団のまとめ)

HANS 88症例の症状の重複数

(難病治療研究振興財団のまとめ)



時間経過に伴う症候の進展と拡大



vaccination

HANS: Human Papillomavirus Vaccine-associated Neuroimmunopathic Syndrome

個々の臨床症状の複雑さ

ひとつひとつの症状は"不定愁訴"的であり、"身体表現性障害"的であるが、全体として一つの「疾患の流れ」を形成し、複数例で同じ「流れ」を形成している。

→ 個々の共通な症状の原因を遡って考える必要がある(= 心因反応ではない)

全身痛、頭痛、だるさ・疲労感、しびれ立ち眩み、不随意運動、睡眠障害 生理異常、光過敏・音過敏・嗅覚過敏 集中力低下・記憶障害、認知異常

自律神経系中枢の異常? 辺縁系の異常? 内分泌中枢の異常?

視床下部・下垂体の異常?

多数例に共通の症状が認められると同時に、 少数例ではあるが、特異な"責任病巣"を示唆する症状が発現している。

→ 特異な症状と共通症状とから、責任病巣を推察していく。

• 尿崩症

vasopressin

生理不順・異常月経

GnRH → LH-FSH

• 骨菲薄化 · 少食肥満

GRH → GH

乳汁分泌・愛着

PRL/oxytocin

- ・ ムズムズ脚症候群
- 幻覚・幻聴
- 多重人格(乖離性同一性障害)

責任病巣の推定 → その部位の障害でHANSの病態を説明できるか?

症状を器官系統別に分ける

HANSの症状



障害される器官系統

1	姿勢保持障害、起立障害、 歩行障害、けいれん、 不随意運動、運動失調	運動/症候
2	痛み、光過敏、音過敏、匂い過敏、味覚変化	体性感覚 /視覚/聴覚/味覚 症候
3	過敏性腸症候群、過呼吸、乳汁漏出、無月経・ 月経不順、無食欲、体重減少、過食症、 喘息発作、皮膚アレルギー、高体温、低体温、 発汗低下、多汗症、尿崩症、睡眠障害、 日中の過眠, 突発性睡眠(ナルコレプシー)	自律神経/内分泌/アレルギー症候
4	無気力、不安、焦燥感、パニック発作、記銘力 低下、計算力低下、集中力低下、学業成績低下、 疲労感 、相貌失認、登校困難、暴言、幻覚、 妄想、意識障害	感情/認知 症候
		10

HANS責任病巣の推定

症候学的検討による同定

	大脳皮質	基底核	視床	辺縁系	脳幹	小脳	視床下部	下垂体
□ 運動症候	++	++	+	_	++	++	++	_
□ 体性感覚症候	+	+	++	+	+	-	+	_
□ 視/聴/嗅症候	+	_	+	+	+	-	+	+
ロ アレルギー症候	_	_	-	_	-	-	+	_
□ 自律神経症候	+	-	+	-	++	-	++	_
口 内分泌症候	_	_	-	_	-	-	++	++
□ 情動・認知症候	++	+	+	++	+	+	++	+

HANS責任病巣の推定

症候学的検討による同定

	大脳皮質	基底核	視床	辺縁系	脳幹	小脳	視床下部	下垂体
□ 運動症候	++	++	+	-	++	++	++	_
□ 体性感覚症候	+	+	++	+	+	-	+	_
□ 視/聴/嗅症候	+	_	+	+	+	-	+	+
ロ アレルギー症候	_	_	-	_	-	-	+	_
□ 自律神経症候	+	_	+	_	++	-	++	_
口 内分泌症候	_	_	-	_	-	-	++	++
□ 情動・認知症候	++	+	+	++	+	+	++	+

HANSは新規疾患(症候群)

- 多彩な症状を呈する複数の患者が生じている。
- 患者は14~19歳の女子で、20歳以上、13歳以下は稀である。
- 男性患者はいない。
- ▶ 個々の症状と症状の組み合わせには、これまでにない特徴がある。
- 症状には軽重があるが、特徴的な共通性が認められる。
- ▶ HPVワクチン接種前にはなかった症状で、全例接種後に生じている。

⇒ HPVワクチン接種による新規疾患の発生

Human papillomavirus vaccine-associated
Neuroimmunopathic Syndrome (HANS)

Subacute Autonomic, Endocrine and Cognitive Disorders after Human Papillomavirus Vaccination (SAECD)

よく受ける質問(1)

HANSなどと言う病気はなく、CRPS や POTSである。これは精神身体性疾患である。あるいは"こころの問題"である。従って、運動でもしていればよくなる。



HANSは症候学的に複雑な疾患である

- CRPS: Complex Regional Pain Syndrome.
- POTS: Postural Orthostatic Tachycardia Syndrome: allodynia (-)
 - memory disorders / cognitive dysfunction (-)

$HA_{\parallel}NS$

1	姿勢保持障害、起立障害、 歩行障害、けいれん、不随意運動、 運動失調	運動/症候
2	痛み、光過敏、音過敏、匂い過敏、味覚変化	体性感覚 /視覚/聴覚/味覚 症候
3	過敏性腸症候群、過呼吸、乳汁漏出、無月経・ 月経不順、 無食欲、体重減少、過食症、喘息発作、皮膚アレルギー、 高体温、低体温、発汗低下、多汗症、尿崩症、睡眠障害、 日中の過眠, 突発性睡眠(ナルコレプシー)	自律神経/内分泌/アレルギー 症候
4	無気力、不安、焦燥感、パニック発作、記銘力低下、計算力 低下、集中力低下、学業成績低下、疲労感 、相貌失認、登校 困難、暴言、幻覚、 妄想、意識障害	感情/認知 症候

よくある質問(2)

HPVワクチンによる重篤な副反応が、なぜ日本でだけ問題にされ、諸外国からは報告はないのか?



HPVワクチン副反応頻度の国別比較

	Denmark	UK	Japan
接種回数	1,635,768	7,632,759	8,898,150
接種人数	630,000	2,670,000	3,380,000
副反応例数(人)	1,730	8,243	(現在の報告数: 2,600)
副反応件数(件)	11,529	19,359	
接種1,000人当たりの 副反応例数	2.7	3.1	接種1,000人当たりの 推定数: 9,126 ~ 10,478

DK: DHMA, Drug Analysis Print: Data lock 2015/7/31

UK: MHRA, Case Series Drug Analysis Print: Data lock 2015/6/5

JP: PMDA 副作用データベース: Data lock 2015/4/30

HPVワクチン副反応報告 (SOC分類) デンマーク(DHMA)/フランス(ANSM)/イギリス(MHRA)

SOC順位	デンマーク	件数	%	フランス	件数	%	イギリス	件数	%
1	神経系障害	1,778	28.3	神経系障害	443	21.2	神経系障害	4,263	29.8
2	一般、全身障害	1,039	16.5	一般・全身症状	400	19.1	一般・全身症状	2,940	20.6
3	筋骨格系·結合組織障害	671	10.7	皮膚•皮下組織障害	272	13.0	胃腸障害	2,100	14.7
4	皮膚•皮下組織	645	10.3	筋骨格系·結合組織障害	191	9.1	筋骨格系·結合組織障害	1,455	10.2
5	胃腸障害	539	8.6	生殖系•乳房障害	173	8.3	皮膚•皮下組織障害	1,301	9.1
6	精神障害	238	3.8	感染症•寄生虫症	108	5.2	血管障害	436	3.1
7	眼障害	209	3.3	血液・リンパ系障害	100	4.8	呼吸器•胸郭•縦隔障害	370	2.6
8	呼吸器・胸郭・縦隔障害	176	2.8	胃腸障害	94	4.5	眼障害	281	2.0
9	心臓障害	119	1.9	免疫系障害	60	2.9	精神障害	232	1.6
10	感染症•寄生虫症	119	1.9	呼吸器・胸郭・縦隔障害	42	2.0	臨床検査	185	1.3
1~10 計		5,533	88.1		1,883	90.1		13,583	95.0
総計		6,279	100		2,092	100		14,300	100

 $(2006/2/7 \sim 2015/2/26)$

(2006/11/23~2013/9/20)

 $(2008/9/1 \sim 2012/7/31)$

- 副反応報告数が異常に多い。
- 国は違っても、1~5位の障害臓器が同じで、<consistent pattern>を認める。

よくある質問(3)

もしも、いまHPVワクチンの接種を中止したら、 10年後に日本は子宮頸癌多発国になるだろう。



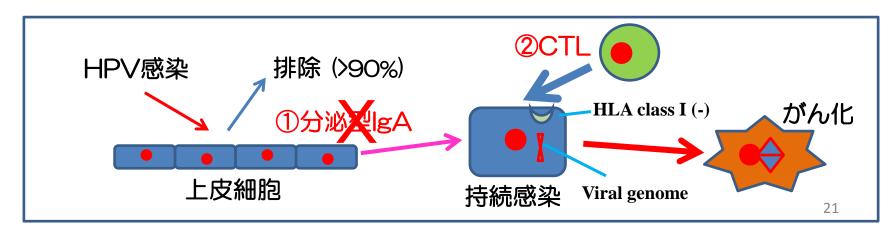
予防接種の効果:免疫学的視点から

ポリオ、インフルエンザ、HPV 分泌型IgA 中和抗体 B型肝炎、日本脳炎、ムンプス、 血清IgG 麻疹、風疹、水痘 ジフテリア、破傷風 毒素の中和 特異抗体の産生 オプソニン効果 インフルエンザ菌、肺炎球菌 髄膜炎菌(ナイセリア菌) 免疫溶菌 (補体によるmembrane attack complex形成) CTL細胞の誘導 ムンプス、麻疹、風疹、水痘 抗原特異的 helper T細胞の誘導 ワクチン全般 →特異抗体産生の補助 T細胞の誘導 helper T細胞の誘導 結核菌 (BCG) →マクロファージ活性化

粘膜・上皮細胞へのウイルス感染の予防

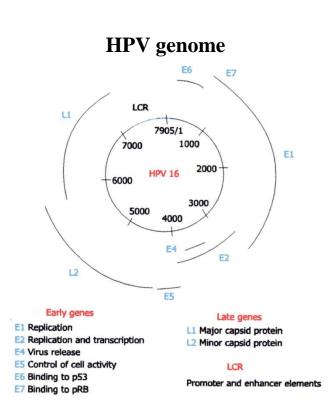
ポリオ・ワクチン(生ワクチン)

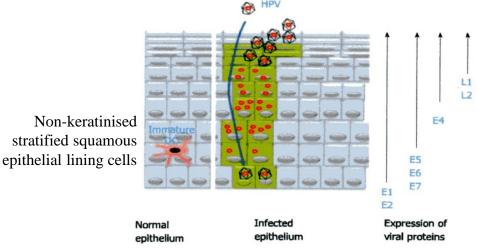
- 経口感染し、腸管で一次増殖 → 細胞融解により遊離ウイルスが血中→神経へ。
 - 分泌型IgA抗体が感染防御 = 経口生ワクチンが効果的。IgGも誘導する。
 - I型・II型・II型: 2回接種で非中和ウイルスに対して3者の抗体獲得。
 - ポリオ消滅地域では、非経口/不活化ワクチン
- HPVで増殖は起うるだってご要中ウイルスを中和)
 - HPVウイルスの侵入口は<u>腟粘膜・子宮頸部上皮</u>である。
 - 感染細胞は上皮細胞 → 一部は持続感染 → 一部はtumorigenesis
 - 粘膜・上皮細胞への感染防御抗体は、分泌型IgAである。
 - 血清中のIgG抗体には、上皮細胞へのHPV感染の防御機能はない。
 - 細胞内に感染したHPVは特異抗体ではなく、CTLによるattackが必要。
 - したがって、HPVワクチンにはCTL誘導機能が必須である。



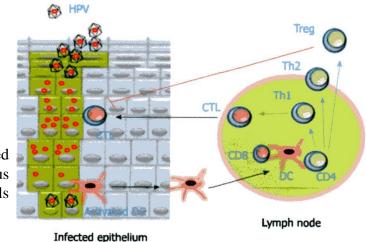
Immune Therapy for Human Papillomaviruses-related Cancers

(World Clinical Oncology, 2014;5:1002-19)





Papillomavirus replication is tissue specific.



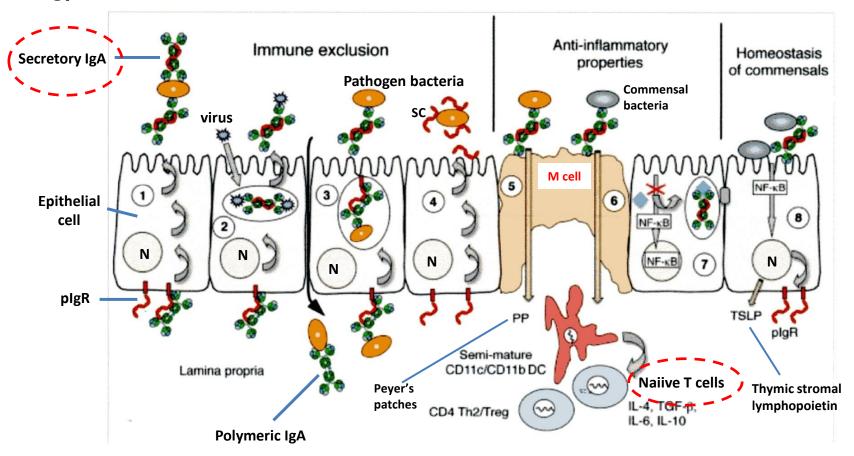
Non-keratinised stratified squamous epithelial lining cells



粘膜免疫の応用によるHPVワクチンの作成

東大産婦人科川名准教授のグループ

「乳酸菌を利用したHPVワクチンの創製」:乳酸菌膜にE7-VLPを結合し、ソフト・カプセルに充填して内服する。

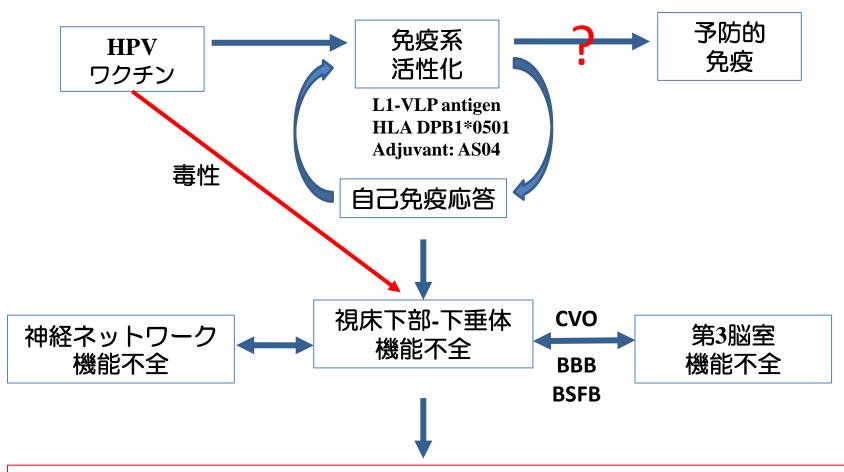


plgR: SC + transmembrane portion

病態生理



HANSの発症メカニズム(仮説)



Subacute Autonomic, Endocrine, and Cognitive Disorders (Kuroiwa)

"HANS"の治療



原因治療と対照療法

• 抗炎症療法

Methyl-prednisolone Pulse Therapy

Plasmapheresis / Absorption

Immunosuppressive agents

Prednisolone

Cyclophosphamide / MMF



Cytokines, Cytokine-R Inhibitors

• 対象療法

Bronchodilator (phosphodiesterase inhibitor)

Theophylline

Anti-depressants

Paroxetine

Duloxetine

Anti-convulsants

Pregabalin

Lamotrigine

Topiramate

Dementia therapeutic agents

Memantine

^{*} The final prognosis of HANS is not known at this time.

